

令和4年1月

「為せば成る」

新春を迎え、市民の皆様方には謹んで新年のお喜びを申し上げますとともに、日頃から府中市教育への深い御理解と厚い御支援、御協力を賜り、心から御礼を申し上げます。

さて、新たな一年を迎えるにあたり、書き初めをされる方もおられるのではないのでしょうか。書き初めは、平安時代の宮中における「吉書の奏（きっしょのそう）」という行事がルーツとなっています。江戸時代には、庶民の間にも「おめでたい新年に書道をする」ことが広がっていきました。

書き初めをすることの意味は2つあり、

1つは、『新年早々に神聖な若水（年が明けて最初に汲んだ井戸水）を使って書くことで神意にあやかり、字が上手になることを祈願する』、もう1つは、『おめでたい言葉や、新年の目標・抱負・意気込みを書くことで、仕事や学業が上手くいく』という意味があるといわれています。

そこで、新年を迎えるにあたり、私が書き初めで書きたい大切にしている言葉の一つを紹介したいと思います。それは「為せば成る」という言葉です。

この言葉は、「為せば成る 為さねばならぬ何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」という江戸時代の米沢藩（山形県）の藩主である、上杉鷹山（うえずぎようざん）公が残した言葉の最初の部分です。この言葉の意味は、『人が何を成し遂げようという強い意思・信念をもって行動することが大切である。何事も達成に向かう。待っていて、何も行動を起こさない、成し遂げようという強い意思・信念があれば結果には結びつかない。』という意味です。アメリカ大統領だった、ジョン・F・ケネディ氏も最も尊敬する日本人に上杉鷹山公の名前を上げました。日本のみならず世界にも通ずるこの言葉の大切さと共通性を感じます。

今年、入学を迎える人もいれば、学校を卒業される人もいます。受験を迎える人、就職される人、成人になられる人、目標に向けて更に努力される人など、人それぞれに進む道があり、その道を進むには困難もあろうかと思いますが、「為せば成る」という言葉を心に留めてますます飛躍されることを願っております。

私も昨年10月に教育長を拝命し、その責任の重さに押しつぶされそうなこともあります。そんな時こそ、チーム一丸となって目指す目標を共有し、決して精神論としてまとめるのではなく、「為せば成る」という強い意思・信念をもって行動し全力を尽くしてまいります。

結びになりますが、本年が皆様お一人お一人にとって、実り多き素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

令和4年1月1日

府中市教育長 荻野 雅裕